

知事記者会見（平成23年1月17日）

●知事発表

（1）平成22年度秋田県芸術選奨受賞者について

●幹事社質問

（1）平成23年度当初予算について

●その他

（1）米内沢病院について

（2）副知事の中国上海の春秋航空訪問について

（3）菅改造内閣について

時間：12：59～13：30

場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）

これから知事会見の方を始めさせていただきたいと思います。

まずはじめに、知事の方から発表事項があるということで、お願いします。

（知 事）

私の方から1件報告があります。今年度の芸術選奨の受賞者が決定しましたのでお知らせします。既に資料が配布されていると思います。去る1月7日に開催されました芸術選奨選考委員会から選考結果の報告を受けて、5名の方々に芸術選奨を贈り表彰することになりました。

なお、特別賞の「ふるさと文化賞」の該当者は、今回はおりません。

この芸術選奨は、昭和50年に創設されたもので、活発な創作活動と優秀な作品を発表し、本県の芸術文化の振興に大きく寄与した方々を表彰するもので、今年が36回目に当たります。今回は、深い人生観に裏打ちされた作品や新しい可能性を切り開いた作品など、技術的にも芸術性の高い作品が多く受賞されています。今回の受賞を機に、今後ますますのご活躍を期待しています。詳しくは配付資料を御覧ください。

なお、表彰式は2月3日木曜日、県の正庁で行います。私の方からは以上です。

（幹事社）

この件について質問ある方お願いします。

それでは幹事社から1点質問させていただきます。今日から本格的な新年度当初予算の査定が始まりましたけれども、予算の概要と編成方針について知事のお考えを教えてください。

さい。

(知 事)

今日から予算査定等が始まって、全体の各部局の予算要求の内容をこれからチェックしまして、それから予算付けをしていくという予定になっています。全体像はまだ見えていませんが、来年度の歳入を見て予算というのは作るわけです。地方交付税及び県税収入も若干落ちるという見込みの中で、基金をどれくらい取り崩していかなければならないのかということもあります。22年度当初予算は、6,280億円ぐらいでした。これには、国の経済・雇用関係の基金が入ってまして、今回は、国の経済対策に伴う基金積立というのはありませんので、22年度当初より、その分確実に落ちることになります。

医療と農林漁業再生の基金について、補正予算で（基金を）積んでいますので、そこを加味して考えなければなりませんけれども、大体6,000億円台には乗るのかなという感じです。ただ、金額的には出し入れがありますので、これまでの補正でやった基金積立、2月補正予算で、その基金について今年度予算の余剰額で措置できるのかどうかということも今計算していますので、確定的なことは言えませんが、6,000億円台前半ぐらいに収まるのかなという形です。地方交付税と県税収入が減るという見込みですが、昨年の国の経済対策予算を差し引いた分とほぼ同じぐらいの規模で組めるかなと思っています。

医療の問題と今一番喫緊の問題である農林漁業の再生については、基金制度創設のときに、その使い方のおおよその概略、方向性をかなり議論していますので、新規の大きな事業は方向性は決まっているというものが多いわけです。また、イメージアップ戦略にしても少子化対策にしても、補正予算等でもやっています。方向が決まっている延長上で（基金の）使い道をどうするのかということになり、公共事業の新規の大きなものというのはありませんから、平成22年と23年が通年予算みたいな形で流れていくのかなとも思います。あとは個々の細かなものも、これからの査定によりますけれども、全体の予算額は（前年度から）そう大きく落さずに済むのではないかと思います。

(幹事社)

この件で質問ある方お願いします。

(記 者)

今回の予算編成で、政策経費と経常経費、合わせて65億円を削減して50億円を新規の事業、重点事業に充てるという方針を示されています。その60億円、5億円の削減の見通しというのは、いかがなものでしょう。

(知 事)

経常の方は5億円をちょっと上回るくらい削減できる見通しです。ただ、政策経費の方は、60億円までは届かないかなと思っています。経常経費の方は、ある意味事務的経費ですので、思いきって削減できますけれども、政策経費の方は状況によってすぐにやめられない事業もあり、精査した結果、目標額の8割ぐらいまでしか削減できない見通しかな

と思います。

(記 者)

50億円を(新規事業の)予算として確保しましょうと。その50億円の確保というのは見通しというのは立っているんでしょうか。

(知 事)

基金を最終的には取り崩さなければならないわけですが、年度途中の不用額とか、最終決算で若干剰余が出るというのは通常ありますので、新規事業の予算について、財源的にはほぼ大丈夫だと思っています。

(幹事社)

ほかにはないでしょうか。

(記 者)

クニマスについてですが、県としても何かやりたいという話をされていましたが、当初予算で具体的な予算をつけてやるようなことはありますでしょうか。

(知 事)

相手のあることですので、今、山梨県さんと打ち合わせをしている最中です。最近の報道を見てますと、山梨県の方でどうされるのかということが、まだ固まっていないようですので、我々としては、できれば(クニマスを)移すとか移さないとかという話ではなく、(生態が)よくわからないところがたくさんありますので、生態学的に勉強したいということです。場合によっては捕獲しなければならない場合もあります。捕獲することが許されるのか、保護の対象になるとするとどのぐらい規制受けるのかということもありまして、今の段階では、予算的なものは確定していませんけれども、予算については今月の下旬までですので、山梨県さんとやり取りをしている最中です。

(記 者)

改めてお尋ねしますが、予算編成方針というのはもう出ていますけれども、今回の予算、知事査定に当たって知事が重点を置く分野といったものについて、改めて知事のお考え、基本方針をお聞かせください。

(知 事)

元気創造プランの延長線上に(予算が)あるわけですので、経済・雇用という面は緊急的なもの、国の基金を使った経済・雇用対策は引き続きやっていきますけれども、県の金融対策、あるいは新たな産業創出、新エネルギー、輸送機というような新しい産業の芽を何とか大きくしようというところには引き続き力を入れていきます。

もう一つ、医療の方は、厚生連の仙北組合病院等が調査に入っていきますので、そういうものが盛られると思います。あるいは、地域農業対策については、基金の使い道につい

ての各要望を受け付けていますので、新年度でどのぐらい基金で手当をするのか、これについて、我々が先んじてやるわけですが、T P Pの関係で6月頃に国の新しい政策が出てくるということもありますので、そこら辺も見なければわからない点もあります。それはそれとして、当初の方針どおり、転作の拡大、米への依存度を減らすという方向、そして地域ブランド作物を作っていくという方向の予算になるのではないかと思います。

あと、イメージアップ戦略、各部局がそれぞれでやっています、それがトータルとしてどのぐらいの規模になるのか、この後、平成24年以降のJ Rとのディスティネーションキャンペーン、まだ決まってはいませんが国民文化祭の開催、こういうものと連なっていく前段の考え方というか施策だと思います。既に一部取りかかっているものもあり、金額的にはそう大きなものではありませんけれども、今までに手を入れなかった新しいジャンルも入ってくるのかなと思っています。

(記 者)

予算と関係するかわかりませんが、県南部が非常に雪が多くて大変だということです。県として補助とか対策とか何かしらお考えでしょうか。

(知 事)

今、(地域振興局に)警戒部や連絡室を設置していますが格上げするかどうかが調整をしています。市町村の方には、県としてできることはお手伝いするという事で盛んに現場に入っています。これ以上雪が降りますと、道路ばかりではなく、高齢者世帯の屋根の雪下ろしという問題も出てきますので、その点、市町村とタイアップしてやらなければいけないと思っています。市町村の、除雪費がかさんでいきますと、国の特別交付税の要素にもなりますし、秋田市が(大雪で)大変なときには、交付税のみならず国からの配分もありました。ここら辺の問題はこれからですが、リアルタイムで市町村とはやり取りしています。

(幹事社)

そのほかある方、お願いします。

(記 者)

米内沢病院の件でお伺いしますけれども、年末に住民の会の方や職員の方が3月末の(職員の)分限処分をめぐって要望をされたと思うんですけども、知事はこの問題については、何か対応をされるかどうかというのを教えていただけますか。

(知 事)

(職員の)身分保障の件等について、知事そのものがかわる話ではないと思いますが、確かに地元の方や職員の方々のお気持ちというのは、察するに余りあります。ただ、実際に(病院が)成り立たないという状況の中、あらゆる場所に病院機能があればいいわけですが、これはなかなか難しい問題ではないかと思います。そういうことで、病院管理者である北秋田市がそういう決定をされたので、これを県が覆すという話にはなかなか

ならないのかなと思います。労使や地域の問題ですので、県として何ができるかというのも難しい点です。

(記 者)

先週、堀井副知事が中国の格安航空会社の春秋航空に行かれて路線を開設するよう要請されましたけれど、今後県としてですね、その手応えというかご報告受けられたと思うんですけれども、手応えと今後の取り組みというのをお願いいたします。

(知 事)

今回報告を受けましたけれども、上海の春秋航空に国際旅行の部門があって、そこにどういう旅行商品が秋田で考えられるのかということで、秋田の観光の売り込みをしてきたということでした。ただ、上海では、秋田について、ほとんど知名度がないという状況にあるようです。これは必ずしも、東京とか大都市だから知名度があるというわけではなくて、売り込みの頻度が高いところが知名度があるようです。上海については秋田がまだまだそこまでやっていません。今回、初めての売り込みでしたので、知名度がないということで、今後、大いに秋田の売り込みをしてもらいたいなど。それによって秋田の認知度が高まると旅行ツアーの企画が組めるのではないかという話だったようです。上海に秋田から飛行機が飛んだとしても来る人がいなければどうしようもありませんので、こちら辺がこれからの課題だと思います。台湾には（チャーター便が）かなり行ってますけれども。

それから春秋航空は、グループの会長さんが最大の実権者です。この方と3時間近く、予定の時間をかなりオーバーしてやり取りをしたということでして、春秋航空側からは、今後、日本との間にある程度の本数を飛ばしたいという話で、それに乗れるかどうかということです。これからかなりの本数に拡大していくことは確認できましたので、その本数の中に秋田がどれくらい入っていけるのか。ただ、格安航空会社ということで、それなりに（県に対して）様々な要望もあったようです。そういうものに費用対効果も含めて、どれくらい応えられるのかというのがこれからの課題です。

今回初めてでしたので、こちらの観光情報も相手方に渡していますし、また、相手方からの様々な要望、意見も聞いていますので、こういうものを踏まえて引き続き今後、協議を続けるということです。具体的にはこれからですが、協議を続ける相手側として秋田が位置付けられたということは言えるのかなと思います。

(記 者)

春秋航空が日本に初参入した茨城県などは、知事さんが何度も現地に足を運ばれたり、佐賀県もそのようなことをされているようですけれども、知事ご本人が今後上海の方に行かれるというような・・・。

(知 事)

そこまではまだ決めていません。今回は副知事が行ったということで、あちらもトップの方が出ていただきましたので、この後の進み具合にもよるのではないかと思います。台湾の方もありますし、中国の方もいろいろありますので、必要によってということだと思います。

います。

(記 者)

先程の米内沢病院の関連ですけれども、知事のご見解をお伺いしたいんですが、一部事務組合の解散によって、そこに雇われていた公務員、地方公務員の身分を持った人が失職、あるいは整理解雇という分限免職に値するという判断がまず北秋田市側の言い分だと思います。その組合の解散に伴う失職、あるいは分限解雇というのは、行政としての正当な対応だと思われていますか。

(知 事)

解雇というのはあり得ます。これは法律的に違法行為ではありません。これはいいとか悪いとかでなくて、法律的に有効であれば、それは認めざるを得ないということです。

(記 者)

市町村指導という立場を県は持っていらっしゃいます。その立場から、県から何か指導されるということはあるのでしょうか。

(知 事)

(病院として) 成り立たないという決定がされたものについて、成り立たせるという指導は、これは指導ではないと思います。ああいう結論を(病院管理者が)出したとすれば、県が支援するかどうかという話にはならないと思います。

(記 者)

自動的に失職者が多数出るということにもなります。その観点からいきますと、県としてバックアップ、もしくはその市町村に対して指導とまではいわないまでも何か助言なりアドバイスは。

(知 事)

できるだけ円満にやっていただきたいというのは筋でありますけれども、解雇は解雇で法律行為で、特別に違法行為でないとすれば、これに情実を絡ませることはむしろ行政として様々な面でほかの点にも影響を与えるのではないかと思います。違法行為でないとすると相手の行為を尊重することになると思います。

(記 者)

2点お伺いします。1点目なんですけれども、先週の内閣の再改造の件で、知事からもコメントいただいているんですけれども、その中で、知事は財政健全化に対して期待感を示されていますし、これまでもそのあたりの問題意識をかなり持っておられたと思うんですけれども、今回、与謝野さんが経済・財政担当大臣になったという、この人事に対する評価をちょっと伺いたいんですが。

(知 事)

これは結果を見ないと・・・今、予断を持ってああだこうだという話にはできないと思いますが、かなり難しいのではないのかなと思います。思うような仕事ができるのか、与謝野さんも、必ずしも体調もいい方ではないようですし、民主党の中で手足になって一生懸命（与謝野さんの）周りでやってくれる方が果たしているのかどうか、これまでの経緯からして、相当ご難儀なさるのではないかと思います。

(記 者)

そうすると、当面はなかなか財政健全化というのは難しいと。

(知 事)

結局、最初から財政再建そのものが、消費税とか各種増税という、確かにここまできると、一定の消費税のアップも必要だという見方が多いんですけども、しかし歳出の方を固定しておいて足りないから増税という話で果たして国民が納得するのかどうか。民主党では子ども手当は絶対下ろさないとやっているんですけども、アンケート等では必ずしも子ども手当が必要かとなると、（必要だという意見は）そう多くないようです。あれもこれも全部セットして増税となるのだったら、（子ども手当は）いらないという選択肢も出てくるわけです。社会保障関係経費としての増税という言い方をしていますけれども、財務省はできるだけ目的税ではなくて一般税にしたいようです。ですから、全体を考えると、（増税が）そう簡単にいくのかどうか、当然、消費税の大幅アップであれば、それは国民に信を問うべき事項ではないのかなと思います。

ですから、国民に信に問うことなく（消費税を）５％から１０％にするというのは、おかしい話だと。与謝野さん一人の能力と体力では私は無理なのではと思います。（今後を）見なければわかりませんけれども。

(記 者)

それでもう一点なんですけれども、先程の話に戻ってしまって恐縮なんですけど、春秋航空の件で、中国との路線を開設されることによって、今後それは交渉になりますけれども、開設されたとすると、それによって期待できる効果みたいなものがあればお願いします。

(知 事)

確かに中国とのいろんな問題があって、その途中で波はあると思いますけれども、これからは国際観光というものを基軸の一つに置いていかなければ、国内観光のみでは、なかなか難しいと思います。特に冬の秋田、雪の多さというものが売り込めるところでもあります。中国、将来は、上海だけではなくシンガポールとか東南アジア全体の経済の上昇に合わせた形でネットワークを広げていかなければならないと思っていますので、韓国、台湾、その次に上海、あるいは香港、シンガポールと順序にいけば一定の効果は見込めるかなと思っています。大きな航空会社というのは定期路線で、主要空港にしか乗り入れませんので、プログラムチャーターに手を打っていくというのが地方空港の一つの道ではないのかなと思います。

(幹事社)

ほかに質問ある方いらっしゃいませんか。

では、時間になりましたので、これで知事会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。